

## 第7回 鳴瀬川総合開発環境検討委員会 技術的助言

日 時 : 令和3年11月29日(月)

### 1. 調査結果及び今後の調査計画について

#### (1) 水環境

NO	意見	回答及び対応方針
1	田川からの流入水が通年的に負荷(特に窒素, リン)が大きいように見えるので、流域の水質特性として記録しておいた方がよい。	ご指摘を踏まえ、過年度成果を基に、今後の調査及び検討内容に考慮し、委員会に諮りながら、影響評価を進めて行く。
2	出水時調査データなど、データ数が少ない場合に将来的に運用が開始された際に困ることが多いので、これまでの出水時調査結果も整理しておき、経年的に把握しておくことが望ましい。	ご指摘を踏まえ、経年的に把握出来るように調査及び整理し、委員会に諮りながら、影響評価を進めて行く。

#### (2) 動物及び植物、生態系

NO	意見	回答及び対応方針
1	豊凶状況の調査結果は、調査結果と定点周辺の状況が一致しないことも考えられるので、猛禽類調査を行う際には、定点周辺の樹木の豊凶も確認しておくことが望ましい。	ご指摘を踏まえ、現地調査において定点周辺の標準木(ブナ、ミズナラ、クリ)を設定し、定点周辺の豊凶を確認しながら調査を進めていく。
2	漆沢ダム洪水調節専用化によって、昆虫だけでなく、サシバの採餌環境としても適した環境になる可能性があり、鳴瀬川ダムの湛水により消失する筒砂子川中流ペアが移動定着するかどうか着目することが望ましい。	ご指摘を踏まえ、鳴瀬川ダム完成後(湛水後)の留意事項として、モニタリング計画に記載の上、委員会に諮りながら進めていく。

3	<p>沿岸の定置網等の捕獲状況から、サケは激減しているものの、サクラマスのかく遡上数は急増していると考えられる。遡上数から推定すると、産卵床の数は少ないと考えられる。サクラマスは梅雨明けから9月までを湧水のある深い淵で過ごしており、越夏場所が重要であると考えている。梅雨明け、7月、8月の越夏状況について確認することが望ましい。</p>	<p>現在、下流河川で令和元年台風の復旧工事が行われており、台風等の大規模出水や工事の影響により、当初の調査段階から瀬淵の状況も刻々と変わっている状況であり、今後もご指摘を踏まえ、河川管理者と情報共有しながら、実施時期、調査方法について、委員会に諮りながら進めて行く。</p>
4	<p>鳴瀬川ダムの工事が開始されると水質ではSSが増加する時期が出てくると思うが、SSの増加が河川域の動物にどのような影響を与えるか分析をしてほしい。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、対応方法を検討し、委員会に諮り進めていく。</p>
5	<p>ミクリ属については、早めに種を同定すべきである。もし開花による同定ができなかった場合は、生育個体のDNA分析により種の同定ができるか検討すること。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、対応方法を検討し、委員会に諮り進めていく。</p>
6	<p>新たに重要種として選定されているカラマツについて、天然のカラマツは蔵王の馬ノ神岳(まのかみだけ)が北限であるため、再度、宮城県レッドリストの選定内容を確認すること。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、宮城県レッドリストを詳細に確認したうえで、対応方針について、委員会に諮り進めていく。</p>
7	<p>長期にわたる工事の影響を評価するにあたっては、重要種のモニタリング調査だけではなく、普通種を含めた定量的なデータを取得し、生態系全体の動態を把握できるようにするべきである。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、重要種の調査保全の他、植生図等から生態系全体を把握出来るような対応方法について、委員会に諮りながら検討を進めていく。</p>

## 2. その他 今後の事業に対する意見

NO	意見	回答及び対応方針
1	本事業の近傍で行われている風力発電事業等、周辺事業との複合的な要因により、動植物に影響が生じる可能性があるため、引き続き情報収集を進め、必要に応じて委員会にて報告いただきたい。	ご指摘を踏まえ、情報収集を進め、必要に応じて委員会に諮り進めていく。
2	下流河川の状況について、自治体の河川工事による影響が懸念されることから、自治体、国、漁協の3者で情報共有をはかり、上手く連携することが望ましい。	ご指摘を踏まえ、関係機関と連携し、情報共有を図りながら、調査を進めていく。